

# 第九 關連組織

# 第一章 同窓会

## 第一節 会 則

### 五三五 哲学館同窓会広告（明治二十七年九月）

#### ●哲学館同窓会広告

今般同窓会を組織致し一応通知致置候へ共通知漏之諸君も可有之や難計候に付略則相掲げ候間左之件々御承知之上至急会費相添御申込有之度候也

#### 哲学館同窓会幹事

哲学館々内員二年以上在学諸君

#### 哲学館同窓会略則

一本会は哲学館々内員にして二ヶ年以上在学せし者相寄りて旧来の交誼を温め相互交通の途を啓くものとす  
一本会々員は一ヶ年金六十銭の会費を納むるものとす、

但し少くとも一時に半ヶ年分即ち三十銭払込むこと

一本会事務所は哲学館内に設置す

一本会創設の際にて十分の交通機関を得難きにより暫く

「東洋哲学」を仮り音信広告等を掲載して会員に配布すること

一会員にして宿所の変更せし者は新旧併せて本会事務所に通知すべきこと

一郵便切手代用の向は五厘切手一割増のこと、為替は本会事務所宛にて本郷区駒込郵便局払込のこと

『東洋哲学』第一編第七号（明治二十七年九月二日）

### 五三六 哲学館同窓会規約（明治三十三年一月）

#### 哲学館同窓会規約

#### 名称及位置

第一条 本会ハ哲学館同窓会ト称ス

本会本部ヲ哲学館ニ置キ支部ヲ便宜ノ地ニ置ク

目的

第二条 本会ハ本館ノ主義ニ基キテ智徳ヲ砥礪シ且ツ同窓間ノ懇親ヲ厚クセンコトヲ期ス

事業

第三条 本会ハ前条ノ目的ヲ達センカ為ニ左ノ事業ヲ行フ

第一項 機関雜誌発行○第二項 毎月一回大家ヲ聘シテ講演ヲ請ヒ且ツ會員ヲシテ演說セシム○第三項 隔月一回茶話会ヲ開キ毎年二回大懇親会ヲ開ク○第四項 春秋二回運動会ヲ行フ○第五項 毎年便宜ノ地ニ夏期講習会ヲ開ク

組織

第四条 本会ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス

名譽會員 各科講師

會員 (甲)現館内員及出身者(在東京)

(乙)出身者(在地方)

第五条 本会ニ左ノ三部ヲ置ク

會計部 雜誌部 庶務部

役員

第六条 本会ハ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 哲学館館主ヲ推戴ス  
部長 三名 本館出身者中ヨリ會長ノ

指名ヲ以テ定ム

理事 十四名 本館各級ノ級長副級長ヲ

以テ之ニ充ツ但シ必要アルトキハ増員スルコトアルベシ

第七条 部長理事ノ各部所屬ハ會長ノ指名トス

會費

第八条 會員ハ左ノ會費ヲ納ムヘシ (甲)十錢、(乙)六錢

但現館内員ハ館費ト共ニ本館會計ニ納ムベシ

『東洋哲学』第七編第一号(明治三三年一月五日)

五三七 哲学館同窓会規則(明治三四年一月実行)

哲学館同窓会規則 三十四年一月ヨリ実行

名称及位置

第一条 本会ハ哲学館同窓会ト称ス

本会本部ヲ哲学館ニ置キ支部ヲ便宜ノ地ニ置ク

目的

第二条 本会ハ本館ノ主義ニ基キテ智徳ヲ砥礪シ且ツ同窓間ノ懇親ヲ厚クセンコトヲ期ス

事業

第三条 本会ハ前条ノ目的ヲ達センカ為ニ左ノ事業ヲ行フ

第一項 機関雑誌ヲ発行ス

第二項 毎月一回大家ヲ聘シテ講演ヲ請ヒ且ツ會員ヲ

シテ演説セシム

第三項 毎年二回大懇親会ヲ開ク

第四項 春秋二回運動会ヲ行フ

第五項 毎年便宜ノ地ニ夏期講習会ヲ開ク

組織

第四条 本会ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス

名譽會員 各科講師

會員 (甲)現館内員 (乙)出身者

第五条 本会ニ左ノ三部ヲ置ク

會計部 雜誌部 庶務部

役員

第六条 本会ハ左ノ役員ヲ設ク

會長 一名 哲学館主ヲ推戴ス

部長 一名 本館出身者中ヨリ會長ノ指

名ヲ以テ定ム

理事 十四名 本館各級ノ級長副級長ヲ以

テ之ニ充ツ

但必要アルトキハ増員スルコトアル

ベシ

第七条 部長及理事ノ各所屬ハ會長ノ指名トス

會費

第八条 會員ハ左ノ會費ヲ納ムベシ

(甲)一ヶ月金十五錢 (乙)一ヶ月金十錢

但現館内員ハ授業料ト共ニ本館會計ニ納ム

ベシ

『哲学館同窓名簿』(明治三十三年二月二〇日)

五三八 哲学館同窓会規則 (明治三十五年四月)

哲学館同窓会規則

名称及位置

第一条 本会ハ哲学館同窓会ト称ス

本会本部ヲ哲学館ニ置キ支部ヲ便宜ノ地ニ置ク

目的

第二条 本会ハ本館ノ主義ニ基キテ智徳ヲ砥礪シ且ツ同

窓間ノ懇親ヲ厚クセンコトヲ期ス

事業

第三条 本会ハ前条ノ目的ヲ達センカ為ニ左ノ事業ヲ行

フ

第一項 機関雑誌ヲ発行ス



第二項 毎年一回（十二月）同窓名簿ヲ発行ス

第三項 毎月一回大家ヲ聘シテ講演ヲ請ヒ且ツ會員ヲシテ演說セシム

第四項 毎年二回大懇親会ヲ開ク

第五項 春秋二回運動会ヲ行フ

会 員

第四条 本会ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス

名誉會員 各科講師

会 員（甲）現館内員（乙）出身者

第五条 本会ニ左ノ三部ヲ置ク

會計部 雜誌部 庶務部

役 員

第六条 本会ハ左ノ役員ヲ置ク

会長 一名 哲学館主ヲ推戴ス

部長 三名 本館出身者中ヨリ会長ノ指名ヲ以テ定ム

理事 若干名 本館各級ノ級長副級長ヲ以テ之ニ充ツ

但必要アルトキハ増員スルコトアルヘシ

第七条 部長及理事ノ各部所属ハ会長ノ指名トス

会 費

第八条 會員ハ左ノ会費ヲ納ムヘシ

（甲）一ヶ月金十五錢（乙）一ヶ月金十錢

但現館内員ハ授業料ト共ニ本館會計ニ納ムヘシ

『東洋哲学』第九編第四号（明治三五年四月五日）

## 五三九 哲学館大学同窓会規則

〔明治三十七年一二月一三日改正〕

哲学館大学同窓会規則

（明治三十七年十二月十三日改正決議）

第一条 本会ハ哲学館大学同窓会ト称ス

第二条 本会ハ哲学館大学内ニ置ク

第三条 本会ハ本大学ノ主義ニ基キ智徳ヲ砥礪シ且ツ同窓間ノ懇親ヲ厚クセンコトヲ期ス

第四条 本会ハ前条ノ目的ヲ達センガ為ニ左ノ事業ヲ行フ

一、機関雜誌ヲ発行ス

二、毎年一回（十二月）同窓名簿ヲ発行ス

三、毎月一回例会ヲ開キ大家ヲ聘シテ講演ヲ請ヒ且ツ會員ヲシテ演說セシムルコトアルベシ

四、毎年二回大会ヲ開ク

五、ロテニス其他ノ運動器具ヲ備ヘ会員ヲシテ一定ノ条件ニ從ヒ之ヲ使用セシム

六、毎年春秋二回運動会若クハ遠足会ヲ開ク

第五条 本大学在學生ハ必ズ會員タルノ義務アルモノトス

第六条 本大学出身者ハ總テ之ヲ会友トシ毎年金壹円貳拾錢以上ヲ寄附シタルモノニハ雜誌ヲ贈呈ス

第七条 本大学講師タルモノ并ニ講師タリシモノヲ推シテ名譽會員トス

第八条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

會長（一名）本大学々長ヲ推戴ス

理事（三名）一名ハ本大学幹事ヲ推シ他ノ二名ハ会友中ヨリ會員ノ多数決ヲ以テ推挙ス（任期一ケ年）

委員（若干名）本大学各學級ノ正副級長之ニ當リ更ニ編輯部運動部委員各若干名ヲ會員中ヨリ互選ス（此任期一ケ年）

第九条 本会々長ハ會務ヲ統轄シ理事ハ會計庶務編輯

運動各部ノ事務ヲ分担シ委員ハ各其理事ヲ補任ス

第十条 本会々長ニ於テ委員會ノ議決ヲ要スト認ムル事件アル時ハ委員會ヲ開ク

第十一条 第四条第四項第六項及其他之ニ等シキ事件アルトキハ理事及委員會ニ於テ議決ス

第十二条 會員ハ會費トシテ毎月金拾五錢ヲ授業料ト共ニ本大學會計ニ納ムベシ

第十三条 本則ノ廃止變更ハ會員全体決議ノ上會長ノ許可ヲ經ベキモノトス

#### 附則

第一、本会ト各地本大學出身者同窓会トノ連絡及本会々台ニ関シ会友ニ對スルノ通知ハ總テ機關雜誌ヲ以テス

第二、本会ニ寄送ノ書籍雜誌等ハ總テ之ヲ本大學圖書館ニ備フ

第三、會員ニシテ本会ノ運動器具ヲ使用セントスルモノハ毎月別ニ定ムル會費ヲ納付スベキモノトス

以上

『東洋哲學』第二編第一号（明治三十八年一月五日）

#### 五四〇 東洋大学同窓会會則（明治三十九年六月）

##### 同窓会々則

第一条 本会ハ東洋大学同窓会ト稱シ東洋大学内ニ置ク

第二条 本会ハ本大學在學生ヲ以テ之ヲ組織ス

第三条 本大學在學生ハ必ズ本会々員タル可キ義務アルモノトス

第四条 本会ハ特ニ本大学出身者ヲ以テ特別会員トシ本

大学教授及講師ヲ推シテ名誉会員トス

第五条 本会ハ本大学創立ノ精神ニ基キ自治ノ箴ニ準ジ  
以テ人格ノ啓発ヲ期シ併セテ會員相互ノ親睦ヲ計リ協  
力一致益々學風ヲ發揚スルヲ以テ目的トス

第六条 本会ハ前条ノ目的ヲ達センガ為ニ左ノ事業ヲ行  
フモノトス

第一項 毎年一回新學年ノ始ニ當リ新入會員ノ歡迎會  
ヲ開催スル事但會費ハ其都度旧會員ヨリ之ヲ徵集ス  
ルモノトス

第二項 毎月一回（但八月ヲ除ク）機關雜誌「東洋哲  
學」ヲ發行シ會員ニ配付スルモノトス但特別會員ニ  
シテ毎年金壹圓八拾錢以上ヲ本会ヘ寄附シタル者ニ  
ハ毎月之ヲ配付シ名誉會員ニシテ本会機關雜誌維持  
金トシテ金貳拾圓以上ヲ寄附シタル者ニハ終身之ヲ  
配付ス

第三項 毎年一回（十二月中旬）同窓會名簿ヲ發行ス  
ル事

但其ノ配付方法ハ本条第二項ニ準ズ

第四項 本大学創立記念日（都合ニ由リ十一月二十三  
日トス）ニハ記念祝賀會ヲ開催スル事但シ本項及本  
条第五項ヲ行フ場合其ノ費用ノ幾分ヲ臨時費トシテ

會員ヨリ徵集スル事アル可シ

第五項 毎年春秋二期ニ於テ修學旅行ヲ行ヒ尚臨時旅  
行ヲ行フ事アルベシ

第六項 弁論部運動部ヲ設ケ討究練習ヲ為ス事但各部  
ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

第七項 本会ハ大日本仏教青年會ニ加入シ同會ノ主旨  
ニ依リ毎年一回同會總會決定ノ期日ニ於テ例会ヲ開  
キ尚臨時當番ニ相當スル時ハ四月ニ於テ釈尊誕生會  
ヲ開催スル事

第七條 本會會員ハ會費トシテ毎月（但八月ヲ除ク）金  
五拾錢ヲ授業料ト同時ニ本大學會計ニ納付ス可シ但新  
入會員ハ別ニ入會金壹圓五拾錢ヲ入學ト同時ニ本大學  
會計ニ納付ス可シ

第八條 本会ニハ常ニ左記ノ役員ヲ置キ會務ヲ処理ス

一 會長 本大学學長ヲ推戴シ會務ヲ統監スル者  
トス

一 理事 式名 本大学幹事ヲ推選シ會長ヲ輔佐シ機關  
雜誌及會計ノ管理ヲナス者トス

一 總務部委員 式名 第四學年第三學年中ヨリ各名  
トシ選舉方法ニ依リテ之ヲ定メ本會全般ニ亘リテ會  
務ヲ統率スル者トス

一 弁論部運動部委員 各八名 各學年四名ヅトシ選

挙方法ニ依リテ之ヲ定ム両部ニハ各会計係名ヲ置キ該部ノ会計ヲ司リ其他ノ者ハ第六條第六項所定ノ各部ノ事務ヲ分担執掌スルモノトス

一 臨時会務整理委員數名 必要ニ臨ミテ委員中ヨリ互選シ之ヲ囑託シ会務ノ整理ヲナサシム但人員ハ場合ニ依リテ之ヲ定ム

第九條 委員ハ任期一ケ年トス

第十條 委員ニシテ其職責ヲ尽ササル者ハ委員會ノ決議ニヨリ任期中ト雖モ辭職ヲ勸告スル事ヲ得

第十一條 委員ニシテ到底其ノ職ニ耐ユル事能ハザル事情有ル時ハ理由ヲ具シテ辭職スル事ヲ得

第十二條 委員ニ欠員ヲ生ジタル時ハ直ニ補欠選挙ヲ行フ

第十三條 各部委員ノ選挙ハ左記ノ方法ニ依ルモノトス

第一項 各部委員ハ必ず毎年度末二月上旬ニ於テ改選スルモノトス

第二項 総務部委員選挙法

現在第三學年大學部及第二學年専門部中ヨリ各參名ヲ互選方法ニヨリテ予選シ其結果ヲ総務部ニ於テ公示シ一週間以内ニ大會ヲ開キ右予選當選者中ヨリ各名ノ公選ヲ行ヒ開票ノ結果最高點者ヲ以テ後繼總務部委員トシ其結果ヲ會員ニ報告スルモノトス但現

總務部委員ヲ臨時選挙委員トス

第三項 弁論運動兩部委員選挙法

後繼總務部委員決定後三日以内ニ各科級長ト諮リ各學年一科二科（但現在第四學年及専門部第三學年ヲ除ク）ヨリ弁論部運動部委員ヲ各名ヅツ互選スルモノトス但翌年ノ第一學年ニ限り第一學期中ハ各科正級長ヲ以テ兩部委員トシ第二學期九月末日マデニ本項選挙法ニ依リ之ヲ定ム

第十四條 各部委員事務引繼ハ左ノ方法ニ依ル

第一項 總務委員事務引繼ハ第十三條第二項所定ノ後繼總務委員揭示後三日以内ニ之ヲ為スモノトス

第二項 弁論運動兩部事務ハ便宜上現總務部委員之ヲ總括シテ後繼總務部委員ニ引渡スモノトス

第十五條 本會會計事務ヲ左ノ如ク規定ス

第一項 會計事務ハ總務部之ヲ処理シ理事之ヲ保管ス

第二項 新學年ノ始ニ當リ總務部委員ハ理事ト協議ノ

上向一ケ年間ノ予算ヲ編成シ委員會ニ於テ之ヲ議決スルモノトス

第三項 前年度決算報告ハ新學年ノ始ニ當リ之ヲ發表ス

第四項 會費ハ本大學會計ヲ通ジテ理事之ヲ保管ス但臨時費ハ各部委員當該學年ニ就テ徴收シ之ヲ總務部

ニ提出シ総務部委員ハ更ニ之ガ保管ヲ理事ニ託ス

第五項 現金支出ノ場合ハ各部委員ハ総務部ヲ經テ之ヲ理事ニ申請シ現金ヲ受ケ取り各部委員ハ総務部常備ノ帳簿ニ金額ヲ記シ署名ノ上現金ヲ受取ルモノトス

第十六条 第六条各項及臨時重要事業開催ノ場合ハ各部委員協力輔佐ス可キモノトス

第十七条 本会役員トシテ委員全部ノ協議ヲ要スト認ムル事項シタル時ハ委員全部ヲ召集シ委員会ヲ開キ該事項ヲ討議シ多数決ヲ以テ之ヲ決ス尚會員一同ノ議決ヲ要スト認ムベキ事項シタル時ハ同窓会大会ヲ開キ多数決ニヨリテ之ヲ決定スルコトアルベシ

第十八条 本則ノ改正又ハ変更ヲ為サントスル時ハ委員全部ニテ之ヲ議決シ尚會員全体ノ承諾ヲ得更ニ本会會長ノ認可ヲ得テ之ヲ揭示シ即日実施スルモノトス

『東洋大学創立五十年史』三七〇—三七三頁

(東洋大学、昭和二年一月二三日)

## 五四一 東洋大学同窓会規則

(明治三十九年十二月一三日改正)

東洋大学同窓会規則

第一条 本会ハ東洋大学同窓会ト称ス

第二条 本会ハ東洋大学内ニ置ク

第三条 本会ハ本大学ノ主義ニ基キ智徳ヲ砥礪シ且ツ同窓間ノ懇親ヲ厚クセンコトヲ期ス

第四条 本会ハ前条ノ目的ヲ達センガ為ニ左ノ事業ヲ行フ

一、機関雜誌ヲ發行ス

二、毎年一回(十二月)同窓名簿ヲ發行ス

三、毎月一回例会ヲ開キ大家ヲ聘シテ講演ヲ乞ヒ且ツ會員ヲシテ演說セシムルコトアルベシ

四、毎学期一回大会ヲ開ク

五、毎年一回運動会若クハ遠足会ヲ開ク

六、本会ニ運動部ヲ置キ擊劍柔道<sup>柔道</sup>テニス練習ヲナス

運動部ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第五条 本大学在學生ハ必ズ會員タルベキ義務アルモノトス

第六条 本大学出身者ハ總テ之ヲ特別會員トシ毎年金壹円拾錢以上ヲ寄附シタルモノニハ雜誌ヲ贈呈ス

第七条 本大学講師タル者並ニ講師タリシ者ヲ推シテ名誉會員トス

第八条 名誉會員又ハ特別會員ニシテ東洋哲学維持金拾

円以上ヲ寄附シタルモノニハ終身雜誌ヲ贈呈ス

第九条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

会長（一名）本大学々長ヲ推戴ス<sup>〔職〕</sup>

理事（三名）一名ハ本大学幹事ヲ推シ他ノ二名ハ会

友中ヨリ委員ノ多数決ヲ以テ推挙ス（任期一ケ年）

編輯委員（五名）名誉会員又ハ特別会員中ヨリ理事

及委員ノ評議ヲ以テ囑託ス（任期一ケ年）

委員（若干名）本大学各学級ノ正副級長之ニ当リ更

ニ編輯部運動部委員各若干名ヲ会員中ヨリ互選ス

（任期一ケ年）

第十条 本会々長ハ会務ヲ統轄シ理事ハ會計庶務編輯運

動各部ノ事務ヲ分担シ委員ハ各理事ヲ輔佐ス

第十一条 本会々長ニ於テ委員会ノ議決ヲ要スト認ムル

事件アルトキハ委員会ヲ開ク

第十二条 第四条第四項第五項及其他之ニ等シキ事件ア

ルトキハ理事及委員会ニ於テ議決ス

第十三条 会員ハ会費トシテ毎月金貳拾錢ヲ授業料ト共

ニ本大学會計ニ納ムベシ

第十四条 本則ノ廢止變更ハ会員全体決議ノ上會長ノ許

可ヲ經ベキモノトス

附 則

第一、本会ト各地本大学出身者同窓会トノ連絡及本会々

合ニ関シ会友ニ対スルノ通知ハ總テ機關雜誌ヲ以テス

第二、本会ニ寄贈ノ書籍雜誌等ハ總テ之ヲ本大学図書館

ニ備フ

第三、会員ニシテ本会ノ運動器具ヲ使用セントスルモノ

ハ毎月別ニ定ムル会費ヲ納付セベキモノトス

『東洋哲学』第一四編第一〇号（明治四〇年十一月一日）

## 五四二 東洋大学同窓会会則（大正七年二月）

### 同窓会々則

第一条 本会ハ東洋大学同窓会ト称シ東洋大学内ニ置ク

第二条 本会ハ本大学在學生ヲ以テ之ヲ組織ス

第三条 本大学在學生ハ必ス本会會員タル可キ義務アル

モノトス

第四条 本会ハ特ニ本大学出身者ヲ以テ特別會員トシ本

大学教授及講師ヲ推シテ名誉會員トス

第五条 本会ハ本大学創立ノ精神ニ基キ自治ノ箴ニ準シ

以テ人格ノ啓発ヲ期シ併セテ會員相互ノ親睦ヲ計リ協

力一致益々学風ヲ發揚スルヲ以テ目的トス

第六条 本会ハ前条ノ目的ヲ達センカ為ニ左ノ事業ヲ行

フモノトス

第一項 毎年一回新學年ノ始ニ當リ新入會員ノ歡迎

会ヲ開催スル事但会費ハ其都度旧会員ヨリ之ヲ徴集スルモノトス

第二項 毎月一回（但八月ヲ除ク）機関雑誌（東洋哲学）ヲ発行シ会員ニ配付スルモノトス但特別会員ニシテ毎年金式円式拾錢以上ヲ本会ヘ寄附シタル者ニハ毎月之ヲ配付シ名誉会員ニシテ本会機関雑誌維持金トシテ金式拾円以上ヲ寄附シタル者ニハ終身之ヲ配付ス

第三項 毎年一回（十二月中旬）同窓会名簿ヲ発行スル事但其ノ配付方法ハ本条第二項ニ準ス

第四項 本大学創立記念日（都合ニ由リ十一月二十三日トス）ニハ記念祝賀会ヲ開催スル事但本項及本条第五項ヲ行フ場合其ノ費用ノ幾分ヲ臨時費トシテ会員ヨリ徴集スル事アル可シ

第五項 毎年春秋二期ニ於テ修学旅行ヲ行ヒ尚臨時旅行ヲ行フ事アルヘシ

第六項 弁論部運動部ヲ設ケ討究練習ヲ為ス事但各部ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

第七項 本会ハ大日本仏教青年会ニ加入シ同会ノ主旨ニ依リ毎年一回同会總會決定ノ期日ニ於テ例会ヲ開キ尚臨時当番ニ相当スル時ハ四月ニ於テ積尊誕生会ヲ開催スル事

第七条 本会会員ハ会費トシテ毎月（但八月ヲ除ク）金

參拾錢ヲ授業料ト同時ニ本大学會計ニ納付ス可シ但新入会員ハ別ニ入会金壹円五拾錢ヲ入会金ト同時ニ本大学會計ニ納付ス可シ

第八条 本会ニハ左ノ役員ヲ置キ会務ヲ処理ス

□ 会長 本会ニハ左ノ役員ヲ置キ会務ヲ処理ス  
會長 本会ニハ左ノ役員ヲ置キ会務ヲ処理ス  
本大学々長ヲ推戴シ会務ヲ統監スル者トス

一 理事 本会ニハ左ノ役員ヲ置キ会務ヲ処理ス  
理事 本会ニハ左ノ役員ヲ置キ会務ヲ処理ス  
雑誌及會計ノ管理ヲナス者トス

一 總務部委員 本会ニハ左ノ役員ヲ置キ会務ヲ処理ス  
總務部委員 本会ニハ左ノ役員ヲ置キ会務ヲ処理ス  
舉方法ニ依リテ之ヲ定ム本会全般ニ亘リテ会務ヲ統率スル者トス

一 弁論部運動部委員 本会ニハ左ノ役員ヲ置キ会務ヲ処理ス  
弁論部運動部委員 本会ニハ左ノ役員ヲ置キ会務ヲ処理ス  
舉方法ニ依リテ之ヲ定ム部トモ兩各會計係名ヲ置キ該部ノ會計ヲ司リ其他ノ者ハ第六條第六項所定ノ各部ノ事務ヲ分担執掌スルモノトス

一 臨時會務整理委員 本会ニハ左ノ役員ヲ置キ会務ヲ処理ス  
臨時會務整理委員 本会ニハ左ノ役員ヲ置キ会務ヲ処理ス  
必要ニ臨ミテ委員中ヨリ互選シ之ヲ囑托シ會務ノ整理ヲナサシム但人員ハ場合ニ依リテ之ヲ定ム

第九条 委員ハ任期各一ケ年トス

第十条 委員ニシテ其職責ヲ尽サ、ル者ハ委員會ノ決議ニヨリ任期中ト雖モ辭職ヲ勧告スル事ヲ得

第十一條 委員ニシテ到底其ノ職ニ堪ユル事能ハサル事情有ル時ハ理由ヲ具シテ辭職スル事ヲ得

第十二條 委員ニ欠員ヲ生シタル時ハ直ニ補欠選挙ヲ行フ

第十三條 各部委員ノ選挙ハ左記ノ方法ニ依ルモノトス

第一項 各部委員ハ必ス毎学年末二月上旬ニ於テ改選スルモノトス

第二項 総務部委員選挙法

現在第三学年（大学部）及第二学年（専門部）中ヨリ各参名ヲ互選方法ニヨリテ予選シ其結果ヲ総務部ニ於テ公示シ一週間以内ニ大会ヲ開キ右予選当選者中ヨリ各参名ノ公選ヲ行ヒ開票ノ結果最高点者ヲ以テ後繼総務部委員トシ其結果ヲ會長ニ報告スルモノトス但現総務部委員ヲ臨時選挙委員トス

第三項 弁論運動兩部委員選挙法

後繼総務部委員決定後三日以内ニ各科級長ト諮リ各学年（一科二科、但現在第四学年及専門部第三学年ヲ除ク）ヨリ弁論部運動部委員ヲ各参名ツ、互選スルモノトス但翌年ノ第一学年ニ限り第一期中ハ各科正級長ヲ以テ兩部委員トシ第二期九月末日マテニ本項選挙法ニ依リ之ヲ定ム

第十四條 各部委員事務引継ハ左ノ方法ニ依ル

第一項 総務委員事務引継ハ第十三條第二項所定ノ後繼総務部委員發表後三日以内ニ之ヲ為スモノトス

第二項 弁論運動兩部事務ハ便宜上現総務部委員之ヲ總括シテ後繼総務部委員ニ引渡スモノトス

第十五條 本會會計事務ヲ左ノ如ク規定ス

第一項 會計事務ハ総務部之ヲ処理シ理事之ヲ保管ス

第二項 新学年ノ始ニ當リ総務部委員ハ理事ト協議ノ上向一ケ年間ノ予算ヲ編成シ委員會ニ於テ之ヲ議決スルモノトス

第三項 前年度決算報告ハ新学年ノ始ニ當リ之ヲ發表ス

第四項 會費ハ本大學會計ヲ通シテ理事之ヲ保管ス但臨時費ハ各部委員當該学年ニ就キテ徵集シ之ヲ総務部ニ提出シ総務部委員ハ更ニ之ヲ保管ヲ理事ニ托ス

第五項 現金支出ノ場合ハ各部委員ハ総務部ヲ經テ之ヲ理事ニ申請シ現金ヲ受取り各部委員ハ総務部常備ノ帳簿ニ金額ヲ記シ署名ノ上現金ヲ受取ルモノトス



第十六条 第六条各項及臨時重要事業開催ノ場合ハ各部委員協力補佐ス可キモノトス

第十七条 本会役員トシテ委員全部ノ協議ヲ要スト認ムル事項生シタル時ハ委員全部ヲ召集シ委員会ヲ開キ該事項ヲ討議シ多数決ヲ以テ之ヲ決ス尚會員一同ノ議決ヲ要スト認ムヘキ事項生シタル時ハ同窓会大会ヲ開キ多数決ニヨリテ之ヲ決定スルコトアルヘシ

第十八条 本会則ノ改正又ハ變更ヲ為サントスル時ハ委員全部ニテ之ヲ議決シ尚會員全体ノ承諾ヲ得更ニ本会会長ノ認可ヲ得テ之ヲ揭示シ即日実施スルモノトス

# 役員

会長	境野 哲	理事	郷 白巖
弁論部長	中島 徳藏	運動部長	垣内 松三
総務部委員	剣持 潔		大井 昭
弁論部委員	鎌田利衛門	成原 要義	青木 得淨
	鈴木 栄観	井上 義男	明石 正道
	高橋 盈司	伊原 孝仁	
運動部委員	浅井 栄蔵	竹内 亮淨	木村 宜雄
	楠 靈智	広田 輝	馬場 讓
	野村 成器	神田 岱穂	

『東洋大学一覽』三七三―三七九頁

(大正七年十二月一八日)

## 五四三―一 東洋大学同窓会会則

〔大正一三年二月一五改正〕

### 東洋大学同窓会会則

第一条 本会ハ東洋大学同窓会ト称シ東洋大学内ニ置ク

第二条 本会ハ本大学在學生ヲ以テ之ヲ組織ス

第三条 本大学在學生ハ必ス本会々員タルヘキ義務アル

モノトス

第四条 本会ハ本大学創立ノ主旨ニ基キ自治箴ニ準シ以テ人格ノ向上啓発ヲ期シ併セテ會員相互ノ親睦ヲハカリ協力一致益々學風ヲ宣揚スルヲ以テ目的トス

第五条 本会ハ前条ノ目的ヲ達セムカ為ニ左ノ事業ヲ行フモノトス

第一項 毎年一回新入會員ノ驪迎会並ニ卒業生ノ送別会ヲ行フ

第二項 毎月一回機關雜誌ヲ発行シ會員ニ配布スルモノトス

第三項 毎年一回同窓会名簿ヲ発行シ會員ニ配布スルモノトス

第四項 本大学創立記念日ニハ記念祝賀会ヲ開催スルコト 但シ本項及ヒ第五項ヲ行フ場合ソノ費用

ノ幾分ヲ徴収スルコトアルヘシ

第五項 毎年春秋二期ニ於テ修学旅行ヲ行フコトアルヘシ 但シ之レカ決定ハ学校当局ト協議ノ上ナスヘキモノトス

第六項 本会ニ庶務部、會計部、学芸部、弁論部、体育部、社会部、出版部ヲ置ク

第一目 庶務部ハ本会ノ議事記録ヲ司ル

第二目 會計部ハ會計事務一切ヲ司ル 但シ細則ハ別ニ之ヲ定ム

第三目 学芸部ハ宗教、哲学、文芸ノ各部ヲ置キ併セテ本学内ノ各種学会ノ聯絡統一ヲハカルモノトス

第四目 弁論部ハ弁論ノ討究練磨ノコトヲ司ル

第五目 体育部ハ剣道、柔道、庭球、野球ノ四部ヲ置キ体育運動ニ関スルコトヲ司ル

第六目 社会部ハ食堂、購買、社会事業ノ三部ヲ司ル

第七目 出版部ハ機関雜誌其他出版ノ事務ニ当ル第六條 本会々員ハ会費トシテ毎月(但シ八月ヲ除ク)

金壹円ヲ授業料ト同時ニ本大学會計部ニ納附スヘシ 但シ新入会員ハ別ニ入会金參円ヲ入学ト同時ニ本大学會計部ニ納ムヘシ

第七條 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

第一項 会長一名本大学々長ヲ推載ス<sup>〔載〕</sup> 会長ハ会務ヲ統監スルモノトス

理事三名 本大学幹事ヲ推シ理事ハ会長ヲ補佐スルモノトス

委員四十名 各部科学年ヨリ二名ヲ選出シ同窓会委員会ヲ組織シ本会全般ニワタル会務ヲ処理スルモノトス

第二項 委員会ハ委員中ヨリ議長及ヒ副議長ヲ互選ス 議長ハ委員会及同窓大会ノ会務ヲ処理ス

第三項 委員会ハ幹事長副幹事長及各部幹事各一名ヲ互選ス 幹事長ハ各部幹事ヲ統率<sup>〔率〕</sup>シ 幹事ハ各部ノ事務ヲ分掌ス 但シ幹事長副幹事長ハ議長副議長ヲ兼任スルコトヲ得ス

第四項 各部幹事力委員会ノ決議ヲ要スト認メ之レヲ幹事長ニ請求シタル場合幹事長ハ委員会ノ開会ヲ議長ニ請求スルモノトス

第五項 委員ノ任期ハ一ケ年トス

第八條 委員ニシテ其職責ヲ尽サルモノハ委員会ノ決議ニ依リ任期中ト雖モ辞職勧告スル事ヲ得

第九條 委員ニシテ到底其任ニ堪フル能ハサル事情アル時ハ理由ヲ具シテ辞任スル事ヲ得

第十条 委員ニ欠員ヲ生シタル時ハ直ニ補欠選挙ヲ行フ

第十一条 委員選挙、同窓会委員ハ必ス毎学年末改選スルモノトス

但シ一学年ニ限り一学期中ハ各科正副級長各一名ヲ以テ委員ニ充ツ

第十二条 委員会ハ全委員数三分ノ二以上ノ出席ヲ以テ成立シ多数決ニヨルモノトス

但シ緊急委員会召集ノ必要アリト認メタル場合ハ右ノ手続ヲ省略スル事ヲ得ルモコノ場合ハ次回委員会ニ於テ事後承諾ヲ求ム可キモノトス

第十三条 各部事務引継ハ各部後継委員会決定後一週間以内ニ事務引継ヲ開キ引継会ヲナスモノトス

第十四条 本会ノ会計事務ヲ左ノ如ク規定ス

第一項 会計事務ハ会計部之ヲ処理シ本学会計之ヲ保管ス

第二項 会計予算ハ新学年ノ始メニ当リ幹事長各部幹事ト協議ノ上予算ヲ編成シ委員会ニ於テ之ヲ決議スルモノトス

第三項 前年度ノ決議報告ハ新学期ノ始メニ於テ之ヲ発表ス

第四項 現金支出ノ場合ハ幹事ハ会計部所定ノ帳簿ニ金額用途ヲ明記シ署名捺印ノ上会計部ニ請求ス

ルモノトス

第十五条 同窓大会ノ決議ヲ要スト認ムヘキ事項生シタル時ハ第十二条ニ依ル委員会ヲ経テ之ヲ同窓大会ニ諮リ多数賛成ヲ以テ之ヲ可決スルモノトス

第十六条 本会役員ニシテ委員会ノ協議ヲ要スト認ムヘキ事項生シタル時ハ何時ニテモ委員会ノ召集ヲ幹事長ニ請求スル事ヲ得 幹事長ハ各部幹事ヨリ委員会ノ請求アリタルトキハ之ヲ議長ニ諮リ議長ハ開催三日以前ニ議案ヲ各委員ニ示シ時日ヲ定メテ委員会ヲ召集シ多数賛成ヲ以テ之ヲ決議スル事ヲ得

第十七条 本会則ノ改正又ハ変更ヲナサムトスル時ハ委員会ニテ多数ノ賛成ヲ得、尚同窓大会ノ承認ヲ得更ニ本会々長ノ認可ヲ得テ之ヲ公示シ期日ヲ定メテ之ヲ実施ス

#### 附 則

第十八条 本改正案ハ公示ノ日ヨリ之ヲ実施ス

大正十三年二月十五日

『東洋大学一覽(大正十三年度)』二六六―二六九頁

(大正一三年二月一日)



## 第二節 沿革

### 五四四 哲学館同窓会沿革（明治二十九年一二月）

#### 本会沿革

我哲学館の設立ありしは、去りぬる明治二十年のことにして、爾來諸国より集合せる幾多の青年、皆斯学の蘊奥を究めんとて、夙夜研鑽怠りなかりけるが、蜚雪の功空しからず、同廿三年七月に至り、第一期卒業生を出すこととなり、是より年々卒業生を出し、今は既に百数十名の多きに及びぬ。

一河の流れを汲み、一樹の影に宿るも、他生の縁なりとかや。まして三年の星霜を同じ学びの窓にあかしくらしつるもの、其友情の厚きこと譬へんものあらず、況や又同じ道に志しゝのみならず、行く末とても同じ事にたつさはらんもの、諸方各国に離散するまゝに任ずべきかは。されば邇きものは、時に相会して旧交を温め益々友誼を厚くし、時に相集りて互に研磨して斯学の振起を謀り、遠きものは普く音信を通して隔靴搔痒の憂なからしめん

と欲し、さては茲に同窓会を設くることとしつ。

其第一回の会合は明治廿四年七月第二期卒業生の出でし時にて、同月十五日神田の福田家に開き、小林力弥、石川照勤、内田護城、池浦法励、河合大爾、荻野浩、根本和一郎、雨宮信順、五十嵐光竜、太田良敏治、大藪良哲、鷺見某、上川教円、沢定教、井上才智、荒波平治郎、羽賀祐令、田中治六、渡辺励信、大谷静照、斎藤康麿、石沢字記の諸氏出席せり。此会に於て結びたる規約は

第一 本会ハ哲学館同窓会ト名ク

第二 本会々員ハ得業士ニ限ル

第三 本会ハ臨時ニ開会ス

第四 本会ハ幹事一名ヲ置キ会員輪次ヲ以テ之ニ当リ

其任期ヲ三ヶ月トス

第五 本会ノ費用ハ会員ノ分担トス

廿四年はこの一会にて、廿五年三月五日に至り、竜岡町豊国亭に会し、会員九名の出席ありて、荒波平治郎小林力弥二氏の提出にかゝる件につき評議して散会せり。此年七月第三期卒業生の出るを機として、一会を催さんとて、通知を会員及び時の卒業生に出したるに、出席の旨を答へたるは只一人のみなるを以て、開かぬこととしたり。迂生此会のあるを知らず、当日散歩の途上友人某氏に遇ひ、其旨を聞き相伴うて会場に到りしに、開会せぬ

との事ゆゑ、落胆して宿に帰りけり。時の幹事石川照動氏記録に書いて曰く、「唯纔ニ新得業士某氏ヨリ其総代トシテ新得業士ハ孰モ既ニ帰郷セリトノ報知ト小林力弥君ヨリ出席ストノ報アリシノミ噫予ト小林君トノミ焉ゾ会スルノ要アラシヤ」

此年の十二月上野見晴亭にて、哲学館茶話会と合同して一会を開きたり。

かくて此年は暮れて翌年三月五日に至り、哲学館の隣寺真浄寺に一会を催し、十名の出席者ありて、迂生の提出せし、会員資格を拡張して館の出身者は入会を許すこと、幹事の数を増し併せて任期を長くすること、及び本会と天則との関係をつくること、太田教尊氏の提出せし帝國大学高等中学校慶応義塾専門学校哲学館等の有志にて成れる連合会と本会と連絡の件につき評議せしが未だ時の到らぬにやありけん、悉皆否決の運命に陥りたり。

噫。此会上に於て、委員二名を設置して天則との関係を謀り、且哲学館に対する任をなさしめんととの議成り、之を選挙せしに小林力弥田中治六の二氏に落ちぬ。

この年の五月上旬福田家に臨時会を開き井上館主も出席せられ、哲学館の拡張并に学科改正の件につき諮問をな<sup>本</sup>し、又館と木会との連絡、卒業生の事業等の議あり。尋で荒波平治郎氏講義所設立の件を提出せしが、一人も異

議を称ふるものなくして、維持法を同氏に一任することゝなし、館主諮問に対しては席上直に意見を吐露するものもあり、他日に譲るとて黙するものもありて、深更退散しけり。

この年七月六日哲学館にて講師館内員の大会を小石川植物園に開き、本会も之に合し、無慮一百余名の盛会となれり。此日同園の庭にて、全会合者を撮影せり。

同じ月の十五日新卒業生の出るを機とし、懇親会を根津神泉亭に開き、同亭の清池に臨み談笑交も至り、三伏の炎熱を覚えざるが如くなりき。

翌廿七年一月十二日学士会事務所にて茶話会を開き、井上館主も出席せられ、例に依り快談数刻に亘りて散会せり。

この年の四月末つ方井上館主率先して神田川より一葉の輕舟に棹さして、亀井戸天神に詣たりしが、舟中に於て前に迂生の提出したりし、会員資格の制限を廃除し、大に門戸を開きて、館に二年在学せし者を入会せしむることゝなし、更に館内員三年級の者を入会せしむる件につき、議全く成り、黄昏神田川に帰り来り、各々我宿をさして急きけり。

前会の決議に基き哲学館出身者及び三年生に通知して、七月九日を卜し、上野見晴亭に会し規約を変更し、更に

拡張準備につき定めしこと左の如し。

一 三年生ハ本会員ニ加フルコト

二 委員ヲ設クルニ館外会員ト館内会員トノ兩方ニ設

ケ内外ノ連絡ヲ便ニスルコト

三 館内ニ本会事務所ヲ設置シ会員ノ變動ヲ明ニスル

コト

四 会員ヨリハ一年金六拾銭ノ会費ヲ徴収シ東洋哲学

ヲ配布スルコト

〔但シ〕館内会員ニハ之ヲ適用セス

会費拡張ニ付二年以上在学セシ者ニ通知書ヲ發

スルコト并ニ其費用ヲ寄附スルコト

右の議決に由り、田中治六、田中泰麿、境野哲、西脇玉峯、佐村八郎の諸氏、及び迂生等、数人にて、前後六七回炎熱を冒して真浄寺に会し、哲学館原簿を普く披閱して、二年在学の者を求め、名簿を調製し、之に入会勧誘の書状を發したりき。其書状の数は実に三百有余。

かくて右書状の回答を待ち居りけるが、やがて回答を検するに其数実に五十に過ぎず。是れ即ち書状の数の六分一に過ぎざるなり。生等予め期すらく、かゝる会の起るは自然の人情なれば一挙にして悉く応せんのみと。豈に図らんや、かゝる少数ならんとは。終に他の六分之五の人々より一片の端書だに來らざりしは何事ぞ。あゝ生等

の精神未だ明ならざる所ありて、多数の人々の賛成を得ること能はざるに由るか。抑々生等の経営未だ到らざる所ありて、人々の心を收攬すること能はざるに由りて然るか。將た又生等の非徳、諸子察て以て共に來し方を語り、与に行く末を謀るに足らずとせしに由るか。或は又人々の冷淡遂に事是に出てしか。そは兎まれかくまれ但々憾むべきは、普く同人を招致して一団を組成すること能はざる一事にぞある。生當時の憤慨自ら禁ずること能はず、且嗟嘆して止まざりき。今後亦是の如くならば其憤慨は往時の残夢に止まらざらんとす。諸子以て如何となす。唯々書状に接しながら応ぜざる人々の、本会对する精神こそ聞かまほしき事なれ。

此時役員を選定せしが其姓名は左の如し。

幹事 三石寅吉 境野 哲 三島定之助 小原春琳

會計 佐村八郎 田中善立

此の如く応せぬ者は多かれど、いかで之が為に沮喪すべき。時に拡張の準備全く成り、館内員三年級にも出席を促がし、内外うち混りて、池の端無極亭に、盛筵を張りて大懇親会を開き、出席者四十余名、之を本会空前の盛会とす。時は明治二十七年十月の八日なりき。この記事は本年十一月発行の東洋哲学に在り。

其後幾もなく幹事境野哲氏大谷教校勤務の身となりしを

以て、職を辞し、會計佐村八郎氏も亦事故ありと称して辞せしを以て、會計に田中治六氏を推し、幹事に佐村八郎氏を薦むることゝなれり。廿八年三月十七日神田福田家にて小集を催せり。事は載せて翌四月発行の東洋哲学に在り。

この年五月三十一日時恰も征清之役局を結び

大元帥陛下下島より御還幸あらせらるゝにつき、同人等みな打揃うて二重橋外にて

竜駕を迎ひ奉り、帰途凱旋の祝宴をかねて、懇親会を福田家に開き、酒三行

大元帥陛下の万歳を三呼し、邦家の隆運を祈りて后、献酬に時を移し、互に歓を尽して散会せり。

当日の出席者五十有余名。

この年十一月下旬大会を福田家に開き、方に本会拡張以来の一年に当るを以て、幹事の報告、役員の改選諸種の決議等をなしたりしが、其要領及び役員は左の如し。

一向後会員の友誼を保ち且消息を通せんため隔月報告書を編纂して会員に頒布すること

一 隔月東京に於て小集を開くこと

一 哲学館々内員は会員となるを得ること

委員 三石賤夫 三島定之助 森山玄昶 竹内周次  
會計 田中治六

此大会の決議に由り、本年二月会員名簿を調製して、会員に頒布せしが、苟も軀殻を塵世に寓する間は生病老死を免るべからざるものにて、委員三島定之助氏は病氣療養のため、遙に房州地方に出で、迂生は眼疾に罹りて、何事も心のまゝならず、之が為に荏苒日を遷し、遂に迂生の後任には田中泰麿氏を推すことゝなりしかど、終に報告書を編纂すること能はず、随て大会の決議を履行せざりしは、全く迂生等の失体にして、会員諸氏に向ひ、叩頭して謝する所なり。

此大会後は右の状態にて月日を送り、先月の八日大会を福田家に開き、役員の改選及び編纂委員設置の件を評議して、之を置くことゝなり、議事の後には互に胸襟を開き高談放論し各々歓を尽して帰途に就けり。現在の役員は左の如し。

委員 田中泰麿 三島定之助 竹内周次 中野堅照  
編纂委員 三石賤夫  
會計 田中治六

向後は昨年大会の決議を履行せんと欲す。不肖其任に当りしを以て本会沿革を編むこと此の如し。

『哲学館同窓会報告第一』（『東洋哲学』）

第三編第一〇号附録、明治二十九年（二月二日）



## 第二章 校友会

### 第一節 会 則

#### 五四五 東洋大学校友会会則

(大正六年二月三日)

##### 校友会々則

第一条 本会ヲ東洋大学校友会ト称シ旧哲学館、哲学館  
大学及ヒ東洋大学出身者ヲ以テ組織ス

第二条 本会ハ会員相互ノ連絡親密ヲ図リ併セテ母校ヲ  
後援スルヲ目的トス

第三条 本会ノ本部ヲ東洋大学ニ置キ支部ヲ各地方便宜  
ノ地ニ置ク

第四条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク  
委員長 一名 常務委員 五名 評議員 若干名

第五条 委員長及ヒ常務委員ハ評議員中ヨリ互選シ評議  
員ハ總會ニ於テ選舉シ任期ハ各一ケ年トシ再選ス

ルコトヲ得

第六条 委員長ハ会務ヲ統轄シ常務委員ハ庶務會計等ノ  
事務ヲ分掌シ評議員ハ委員長ノ招集ニ依リ評議員

会ヲ開キ会務ヲ審議ス

第七条 毎年一回總會ヲ開ク

第八条 本会ノ事業左ノ如シ

一 毎年出身者大会ヲ開クコト

一 臨時講演会ヲ開クコト

一 機関雜誌ヲ発行スルコト(当分東洋哲学ヲ以  
チ之ニ充ツ。雜誌ハ任意購読トス)

第九条 会費ハ年額会費<sup>(金)</sup>円トス

第十条 会員ニハ同窓名簿及ヒ報告書ヲ配布ス

第十一条 本会々員ニシテ転居其他移動アリタル時ハ本  
部ニ通知スヘキモノトス入会又ハ退会セント欲ス  
ル者ハ其旨本部ヘ申込ムヘシ

第十二条 本会則改正ノ必要アル場合ハ評議員会ニ於テ之ヲ決ス

第十三条 右ノ外本会ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事項ハ別ニ細則ヲ以テ之ヲ定ム

『東洋大学一覽』三七九—三八一頁

(大正七年二月一八日)

## 五四六 東洋大学校友会則

(大正八年十一月二日改正)

### 東洋大学校友会則

第壹条 本会ヲ東洋大学校友会ト称シ旧哲学館哲学館大

学及東洋大学ノ出身者ヲ以テ組織ス

第貳条 本会ハ會員相互ノ連絡親密ヲ図リ母校ヲ後援スルヲ以テ目的トス

ルヲ以テ目的トス

第參条 本会ノ本部ヲ東洋大学ニ置キ支部ヲ各地方便宜ノ地ニ置ク

ノ地ニ置ク

第四条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

委員長 一名

副委員長 一名

常務委員 七名(内會計一名)

評議員 四十五名

### 書 記 若干名

第五条 正副委員長及常務委員ハ評議員中ヨリ互選シ評議員ハ總會ニ於テ選舉シ書記ハ委員長之ヲ任免ス

但各委員ノ任期ハ一箇年トシ再選スルコトヲ得

### 第六條

正副委員長及常務委員ニ欠員ヲ生ジタルトキハ其ノ都度補欠選舉ヲ行ヒ評議員ニ欠員ヲ生ジタルトキハ其ノ年度ニ於ケル總會ニ於テ補欠選舉ヲ行フ

但緊急必要ヲ生シタル場合ハ常務委員會ノ決議ヲ經テ委員長之ヲ指名補欠スルコトヲ得

### 第七條

本会ノ役員ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ズ

但止ムヲ得ザル事情アルトキハ評議員ニアリ

テハ常務委員會ノ決議ヲ經テ委員長之ヲ承認

シ正副委員長及常務委員ニアリテハ評議員会

ノ決議ニ依リ之ヲ決定ス

### 第八條

委員長ハ会務ヲ統轄シ副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アルトキハ之ヲ代理ス常務委員ハ会務ノ一切ヲ分掌審議シ評議員ハ委員長ノ召集ニヨリ評議員会ヲ開キ主要ナル会務ヲ審議決定

シ書記ハ本会ノ事務ニ従事ス

第九条 本会ハ常務委員会ノ決議ヲ経テ適當ノ時期ニ於

テ毎年一回總會ヲ開ク

第拾条 本会ノ事業ハ左ノ如シ

一、評議員会ニ於テ本学出身者中ヨリ東洋大

学財団法人ノ維持員ヲ選舉スルコト

一、機関雜誌ヲ発行スルコト

但当分『東洋哲学』ヲ以テ之ニ充テ会

員ニハ無料配布ス

一、其ノ他第貳条ノ目的ニ從ヒ臨時緊急ナル

事業ヲ經營劃策スルコト

第拾壹条 本会員ハ毎年四月中ニ一箇年分会費金四円ヲ

本会会計ニ納ムルモノトス

但二回ニ分納スルコトヲ得

第拾貳条 會員ニハ同窓名簿及各種報告書ヲ配布ス

第拾參条 本会員ニシテ転居転職其ノ他移動ノアリタル

時ハ本部ニ通知スルモノトス

第拾四条 本会則ハ評議員会ノ決議ニ依リ改正スルコト

ヲ得

第拾五条 右ノ外本会ノ目的ヲ達スル為必要ナル事項ハ

別ニ細則ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第拾六条 本規則ニ依ル会費ノ徴収及雜誌ノ無料配布ハ

大正九年四月ヨリ之ヲ実施ス

「校友会会則の改正実施」(『東洋哲学』

第二六編第一〇号、大正八年十一月一〇日)

## 五四七 東洋大学校友会会則

〔大正一三年五月二五日變更〕

東洋大学校友会々則(大正十三年五月二十五日變更)

第壹条 本会ヲ東洋大学校友会ト称シ旧哲学館哲学館

大学及東洋大学ノ出身者ヲ以テ組織ス

第貳条 本会ハ會員相互ノ連絡親密ヲ謀リ母校ヲ後援

スルヲ以テ目的トス

第參条 本会ノ本部ヲ東洋大学ニ置キ支部ヲ各地方便

宜ノ地ニ置ク

第四條 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

委員長一名、副委員長一名

常務委員七名(内會計一名)、評議員五十名、書記

若干名

第五條 本会ノ評議員ハ左記資格ヲ有スルモノタルコ

ト

一、卒業者 二、選科終了者 三、推薦得業者

四、講師ノ称号ヲ有スルモノ

第六条 正副委員長及ビ常務委員ハ評議員中ヨリ互選シ評議員ハ總會ニ於テ前条ノ資格者中ヨリ選挙シ書記ハ委員長之ヲ任免ス、但シ各委員ノ任期ハ一箇年トシ再選スルコトヲ得

第七条 正副委員長及ビ常務委員ニ闕員ヲ生ジタル時ハ其都度補欠選挙ヲ行ヒ評議員ニ欠員ヲ生ジタル時ハ其ノ年度ニ於ケル總會ニ於テ補欠選挙ヲ行フ、但シ緊急必要ヲ生ジタル場合ハ常務委員会ノ決議ヲ經テ委員長之ヲ指名補欠スルコトヲ得

第八条 本会ノ会員ハ正当ノ事由ナクシテ辞任スルコトヲ得ズ、但シ止ムヲ得ザル事情アルトキハ評議員ニアリテハ常務委員会ノ決議ヲ經テ之ヲ承認シ正副委員長及ビ常務委員ニアリテハ評議員会ノ決議ニヨリ之ヲ決定ス若シ定員ノ半数以上辞表提出アリタル場合ハ評議員全員ノ選挙ヲ行フモノトス

第九条 委員長ハ会務ヲ統轄シ、副委員長ハ之ヲ補佐シ委員長事故アルトキハ之ヲ代理ス、常務委員ハ会務ノ一切ヲ分掌審理シ評議員ハ委員長ノ召集ニヨリ評議員会ヲ開キ主要ナル会務ヲ審議決定ス、書記ハ本会ノ事務ニ従事ス

第十条 評議員会ハ毎年三回以上適當ノ時機ニ於テ常

務委員ノ決議ヲ經テ之ヲ開キ評議員ノ三分ノ一以上ノ請求アリタル時ハ委員長ハ一週間以内ニ之ヲ開会スルモノトス

第十一条 本会ハ常務委員会ノ決議ヲ經、適當ノ時期ニ於テ毎年一回總會ヲ開ク臨時校友会總會ハ評議員会ノ決議ハ校友会々員五十名以上ノ請求アリタル場合ハ十日以内ニ委員長之ヲ開会スルモノトス

第十二条 本会ノ事業ハ左ノ如シ

一、評議員会ニ於テ本学出身者中第五条ノ資格ヲ有スルモノヨリ東洋大学財団法人ノ維持員ヲ選挙スルコト

一、機関雜誌ヲ発行スルコト、但シ当分『観想』ヲ以テ之ニ充テ会員中購読料納入者ニ限り之ヲ配布ス

一、其他第二条ノ目的ニ從ヒ臨時緊急ナル事業ヲ劃策経営スルコト

第十三条 本会員ハ毎年度ノ始メニ於テ一箇年分ノ会費金壹円貳拾銭ヲ本会々計ニ前納スルモノトス、但シ会員中機関雜誌ヲ購読スルモノハ会費ト併セテ一ケ年金五円トシ之レヲ二回ニ分納スルコトヲ得

第十四条 会員中会費納入者ニハ同窓会名簿及各種報告書ヲ配布ス

第十五条 本会員ニシテ転居転勤其ノ他移動アリタルト  
キハ本部ニ通知スルモノトス

第十六条 本会員ハ評議員会ノ決議ニヨリ改正スルコト  
ヲ得

第十七条 右ノ外本会ノ目的ヲ達スル為メニ主要ナル事  
項ハ別ニ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第十八条 本会員ニシテ本会ノ目的ニ反スル行為ヲ為シ  
又ハ本会ノ体面ヲ汚ス等ノ所為アリタル時ハ評議員会  
ノ決議ヲ經テ適當ナル警告ヲ發シ又ハ除名スルコトヲ  
得

#### 附 則

第十九条 本会則ノ施行期日ハ大正十三年六月一日ヨリ  
トス

『観想』第六号（大正一三年六月一五日）

### 五四八 東洋大学校友会会則

〔昭和四年一〇月一日施行〕

#### 校友会々則變更

第一条 本会ヲ東洋大学校友会ト称シ旧哲学館、哲学館  
大学及東洋大学ノ出身者ヲ以テ組織ス

第二条 本会ハ会員相互ノ連絡親密ヲ謀リ母校ヲ後援ス

ルヲ以テ目的トス

第三条 本会ノ本部ヲ東洋大学内ニ置キ支部ヲ各地方便  
宜ノ地ニ置ク支部設置ノ際ハ、会員名簿ヲ提出シ本部ノ  
承認ヲ得ルモノトス

第四条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

委員長一名、副委員長一名

常務委員七名（内会計一名）、評議員五十名（他ニ支部  
選出ノ評議員若干名）、書記若干名

第五条 本会ノ評議員ハ左記資格ヲ有スルモノタルコト

一 卒業者

二 選科終了者

三 推薦得業者

四 講師ノ称号ヲ有スル者

第六条 正副委員長及ヒ常務委員ハ評議員中ヨリ互選シ  
評議員ハ總會ニ於テ前条ノ資格者中ヨリ選舉シ會員約  
參拾名以上ノ支部ニ於テハ、毎年六月支部總會ヲ開キ評  
議員一名ヲ選出シ委員長ニ通知スルモノトス書記ハ委  
員長之ヲ任免ス但シ委員ノ任期ハ一箇年トシ再選スル  
コトヲ得

第七条 正副委員長及ヒ常務委員ニ欠員ヲ生ジタル時ハ  
其都度補欠選舉ヲ行ヒ評議員ニ欠員ヲ生ジタル時ハ其  
ノ年度ニ於ケル總會ニ於テ補欠選舉ヲ行フ、但シ緊急

必要ヲ生シタル場合ハ常務委員ノ決議ヲ經テ委員長之ヲ指名補欠スルコトヲ得

第八条 本会ノ役員ハ正当ノ事由ナクシテ辞任スルコトヲ得ズ、但シ止ムヲ得サル事情アルトキハ評議員ニアリテハ常務委員会ノ評議ヲ經テ之ヲ承認シ、正副委員長及ヒ常務委員ニアリテハ評議員会ノ決議ニヨリテ之ヲ決定ス若シ定員ノ半数以上辞表提出アリタル場合ハ評議員全員ノ改選ヲ行フモノトス

第九条 委員長ハ会務ヲ統轄シ、副委員長ハ之ヲ補佐シ委員長事故アルトキハ之ヲ代理ス、常務委員ハ会務ノ一切ヲ分掌審理シ評議員ハ委員長ノ召集ニヨリ評議員会ヲ開キ主要ナル会務ヲ審議決定ス、書記ハ本会ノ事務ニ従事ス

第十条 評議員会ハ毎年三回以上適當ノ時期ニ於テ常務委員ノ決議ヲ經テ之ヲ開キ評議員ノ三分ノ一以上ノ請求アリタル時ハ委員長ハ一週間以内ニ之ヲ開会スルモノトス

第十一条 本会ハ常務委員会ノ決議ヲ經、適當ノ時期ニ於テ毎年一回總會ヲ開ク、臨時校友会ハ評議員会ノ決議又ハ校友会委員五十名以上ノ請求アリタル場合ハ十日以内ニ委員長之ヲ開会スルモノトス

第十二条 本会ノ事業ハ左ノ如シ

一 評議員会ニ於テ本学出身者中第五条ノ資格ヲ有スルモノヨリ東洋大学財団法人ノ維持員ヲ選舉スルコト

一 機関雜誌ヲ發行スルコト但シ当分東洋大学報ヲ以ツテ之ニ充テ、會員中購読料納入者ニ限り之ヲ配布ス

一 其他第二条ノ目的ニ從ヒ臨時緊急ナル事業ヲ劃策經營スルコト

第十三条 本会員ハ毎年度ノ始メニ於テ一箇年分ノ會費金壹円五拾錢ヲ本会々計ニ前納スルモノトス

第十四条 <sup>〔条〕</sup> 會員中會費納入者ニハ大学一覽及各種報告書ヲ配布ス

第十五条 本会員ニシテ転居転勤其ノ他移動アリタルトキハ本部ニ通知スルモノトス

第十六条 本会則ハ評議員会ノ決議ニヨリ改正スルコトヲ得

第十七条 右ノ外本会ノ目的ヲ達スル為メニ主要ナル事項ハ別ニ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第十八条 本会員ニシテ本会ノ目的ニ反スル行為ヲ為シ又ハ本会ノ体面ヲ汚ス等ノ所為アリタル時ハ評議員会ノ決議ヲ以テ適當ナル警告ヲ發シ又ハ除名スルコトヲ得

附則

第十九条 本会則ノ施行期日ハ昭和四年十月一日トス

『東洋大学々報』第一号（昭和四年一月）

五四九— 東洋大学校友会会則

〔昭和八年七月改正〕

東洋大学校友会々則（昭和八年七月改正）

第一章 名称目的

第一条 本会ハ東洋大学校友会ト称ス

第二条 本会ハ會員相互ノ連絡親睦ヲ図リ且ツ母校ヲ後援スルヲ以テ目的トス

第二章 本部及支部

第三条 本会ノ本部ヲ東京市小石川区原町十七番地東

洋大学内ニ置キ支部ヲ各地ニ置ク

支部ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第三章 会 員

第四条 本会ハ左ノ資格者ヲ以テ組織ス

旧哲学館、旧哲学館大学及ヒ東洋大学ノ卒業業者、選科修了者、推薦得業者、講師ノ称号ヲ有スル者

第五条 本会ニ入会セントスルモノハ卒業年度学部専門部ノ別、科別、職業、住所、氏名、生年月日ヲ記入

シ入会金老円及ヒ一ケ年分ノ会費ヲ添ヘ本部ニ申込ムモノトス、但シ新卒業生ハ卒業年度末ニ於テコレヲ本部會計ニ納付スルモノトス

第六条 會員ハ毎年度ノ始メニ於テ一ケ年分ノ会費金老円五拾銭ヲ前納スルモノトス、但シ一時金參拾円以上ヲ納入シタルモノハ終身會員トス

第四章 役 員

第七条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

委員長 一名 副委員長 一名

常務委員 八名 評議員 六拾名

第八条 本部役員ハ在京會員ニシテ会費ヲ完納セルモノノ限ル

第九条 委員長ハ本会ヲ代表シ会務ヲ統轄ス

副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アルトキハ之ヲ代理ス

常務委員ハ本会ノ會務ヲ分掌執行ス

評議員ハ評議員会ニ於テ本会ノ重要事項ヲ審議決定ス

第五章 役員選挙

第十条 役員ノ任期ハ二ケ年トス、但シ再選ヲ妨ケス

第十一条 委員長副委員長常務委員ハ評議員会ニ於テ選挙シ評議員ハ詮衡委員コレヲ詮衡決定ス

但シ詮衡委員ノ員數ハ選挙長之ヲ決定スルモ其ノ員數

ハ五名ヲ下ルコトヲ得ス

第十二条 詮衡委員ノ選挙ヲナシ得ルモノハ會員ニシテ  
会費ヲ完納シタルモノニ限ル

第十三条 詮衡委員選挙ノ選挙長ハ委員長トス

第十四条 選挙長ハ詮衡委員選挙期日十日前ニ第十二条  
ノ有資格者ヲ以テ詮衡委員選挙人名簿ヲ作成スルモノ  
トス

第十五条 選挙長ハ選挙期日一週間前ニ其ノ日時ヲ前条  
選挙人名簿ニヨリ選挙人ニ通知スルモノトス

第十六条 詮衡委員ノ選挙ハ連記式無記名投票ニ依ルモ  
ノトス

第十七条 投票所ハ東京小石川区原町十七番地東洋大学  
内ニ設ク

第十八条 選挙長ハ選挙人中ヨリ五名ノ立会人ヲ指名シ  
投票及開票ニ立会ハシム

第十九条 投票時間中投票所ニハ選挙長立会人及ヒ投票  
ノ為メノ選挙人以外ハ何人モ出入スルコトヲ得ス

第二十条 投票用紙ハ選挙ノ当日選挙長ヨリ投票所ニ於  
テ之ヲ選挙人ニ交付スルモノトス

第二十一条 当選ハ得票数ノ順位ニヨリ決定ス、但シ得  
票同数ノ場合ニハ卒業及出身順ニヨリ卒業及出身ノ同  
一ナル場合ハ年長順ニヨルモノトス

第二十二条 詮衡委員ハ当選後十日以内ニ評議員詮衡委  
員会ヲ開キ年長者ヲ座長トシテ所定ノ員数ヲ詮衡決定

シ之ヲ選挙長ニ報告ス選挙長ハ速ニ評議員承諾書ヲ徴  
シ之ヲ会報又ハ適當ノ方法ニヨリテ會員ニ報告スルモ  
ノトス

第二十三条 評議員詮衡委員長ハ每年新卒業生中ヨリ二  
名以内ノ評議員ヲ指名スルコトヲ得

第二十四条 會員二十名以上ノ支部ニ於テハ当該支部評  
議員ノ任期満了ト同時ニ評議員一名ヲ選出シ本部委員  
長ニ通知スルモノトス、但シ第二十三条、第二十四条  
ノ評議員ハ第七条ノ定員外トス

第二十五条 正副委員長及常務委員ニ欠員ヲ生シタルト  
キハ評議員会ニ於テ補欠選挙ヲ行ヒ評議員ニ欠員ヲ生  
シタルトキハ常務委員会ノ決議ヲ經テ委員長之ヲ指名  
補欠スルコトヲ得、但シ補欠選挙ニ依ル役員ノ任期ハ  
前任者ノ残任期間トス

第二十六条 役員ハ正当ノ理由ナクシテ辞任スルコトヲ  
得ス、但シ止ムヲ得サル理由アルトキハ評議員会ニ於  
テ三分ノ二以上ノ賛成ヲ得テ辞任スルコトヲ得

## 第六章 事 業

第二十七条 本会ハ左ノ事業ヲ行フ

一、本会評議員会ハ東洋大学財団寄附行為第十四条ノ



東洋大学々長及東洋大学分属理事ノ詮衡委員ヲ選

出シ且ツ同上寄附行為第二十条及第二十一条ニヨ  
リ東洋大学財団維持員ヲ選出スルモノトス

一、毎年一回以上機関雑誌『東洋大学校友会々報』ヲ  
発行シテ会員ニ頒ツ

一、毎年一回『東洋大学一覽』ヲ発行シ実費ヲ以テ会  
員ニ頒布ス

一、常ニ会員ノ所在職業等ヲ調査シ就職其ノ他ノ連絡  
幹旋ヲナス

一、毎年四月中ニ新入会員歓迎会ヲ行フ  
一、其ノ他必要ニ応シ随時各種ノ事業ヲ行フ

## 第七章 会 計

第二十八条 本会ノ経費ハ会費、寄附金其他ノ収入ヲ以  
テ支弁ス

第二十九条 本会ノ会計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌  
年三月三十一日ニ終ル

第三十条 本会ノ予算ハ毎会計年度開始前評議員会ノ決  
議ヲ経テ之ヲ定メ決算ハ次年度ノ始メニ於テ評議員会  
ノ承認ヲ経ヘキモノトス

## 第八章 事 務

第三十一条 本会ノ事務ヲ処理スル為メ委員長ハ常務委  
員会ノ議ヲ経テ書記若干名ヲ置クコトヲ得、但シ書記

ハ有給トス

第三十二条 書記ハ左記ノ書類ヲ常ニ整理保管シ会員ノ  
要求アル場合ハ遅滞ナク其ノ閲覧ニ供スルコト

1 本会記録

3 役員名簿

5 出納簿、領収証綴

7 事業ニ関スル記録

2 会員名簿

4 予算書、決算書

6 議事録

8 支部ニ関スル記録

## 第九章 評議員会及總會

第三十三条 評議員会ハ毎年三回以上委員長之ヲ召集シ  
本会ノ重要事項ヲ議決ス

第三十四条 評議員十五名以上ヨリ會議ノ目的タル事項  
ヲ明示シテ請求アリタルトキハ委員長ハ十日以内ニ臨  
時評議會ヲ招集スルコトヲ要ス

第三十五条 評議員ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ  
決ス、但シ定数ノ三分ノ一以上出席スルニ非サレハ會  
議ヲ開クコトヲ得ス

第三十六条 評議員定員ノ半数以上辞表提出アリタル場  
合ハ評議員全員ノ改選ヲ行フモノトス

第三十七条 本会總會ハ毎年一回本部ニ於テ開ク總會ノ  
日時場所ハ評議員会ノ承認ヲ経ルコトヲ要ス

第三十八条 臨時總會ハ評議員会ノ決議又ハ会員參分ノ  
一以上ノ請求アリタル場合ハ十日以内ニ委員長之ヲ開

会スルモノトス

第三十九条 本会々員ニシテ本会ノ目的ニ反スル行為ヲナシ又ハ本会ノ体面ヲ汚ス等ノ行為アリタル時ハ評議員会ノ決議ヲ以テ適當ナル警告ヲ発スルコトヲ得尚、評議員定数ノ三分ノ二以上ノ賛成アリタルトキハ

除名スルコトヲ得

第四十条 本会々則ノ改正ハ評議員会ノ決議ヲ經更ニ總會ノ承認ヲ經ルヲ要ス

附 則

本会則ハ改正ト同時ニ実施ス

但シ本会則ニ規定セル役員ノ任期ハ昭和十年三月三

十一日マテトス

本会実施最初ノ役員ハ高楠順次郎、安藤正純、高島

米峰コレヲ選任決定シ本会則ノ選舉規定ニ依ラサル

モノトス

以 上

『東洋大学一覽 昭和九年度』二五三—二五七頁

(昭和一〇年二月一〇日)

## 五四九—二 東洋大学校友会本部對地方支部規定

(昭和八年一二月実施)

本部對地方支部規定

東洋大学校友会々則第三条ニヨリ支部規定ヲ左ノ通り定ム

第一条 東洋大学校友会支部設立ニ際シテハ次ノ要件ヲ

具備シ、校友会委員長ニ届出デ承認ヲ經ルモノトス

一、會員名簿

二、支部役員名簿

三、當該支部規約

第二条 校友会々則第五条ニ依ル入会金ハ當該支部ノ事

務費ニ充ツ

第三条 校友会々則第六条ニ依ル会費ハ本人ヨリ直接校友

会會計係ニ納入スルモノトス

第四条 東洋大学校友会役員タル評議員ハ校友会々則第

二十四条ニ依リ選出スベシ

但シ會員五十名以内一名、五十名ヲ超ユル毎二一名ヲ

増ス

第五条 新入會員アリタル場合及<sup>〔イ〕</sup>會員移動ノ際ハ直チ

ニ支部ハ當該會員ノ職業、氏名、卒業得業年次履修学

科名等記載ノ上本部ニ報告スベシ

附 則

本規定ハ昭和八年十二月ヨリ実施ス

地方支部設置ノ分次ノ如シ

新潟県支部 福島県支部 広島県支部 兵庫県支部  
 愛媛県支部 埼玉県支部 千葉県支部 山梨県支部  
 山形県支部 台湾支部 満洲支部 京城支部  
 釜山支部 以上

『東洋大学一覽 昭和九年度』二五八頁

(昭和一〇年二月一〇日)

# 五五〇——東洋大学校友会三州支部会則

〔昭和三年八月二〇日施行〕

## 三州支部会則

- 第一条 本会ヲ東洋大学校友会三州支部ト称シ事務所ヲ  
 鹿児島市鷹師町三四坂元常磐方ニ置ク
- 第二条 本会ハ三州出身並ニ三州在住ノ東洋大学卒業者  
 及ヒ在学生其他東洋大学関係者ヲ以テ組織ス
- 第三条 本会ハ会員相互ノ連絡親睦ヲ図リ人格ノ向上発  
 展ヲ期シ且ツ母校ヲ応援スルヲ以テ目的トス
- 第四条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク
- 理事 若干名 相談役 若干名  
 顧問 若干名
- 第五条 理事ハ会員中ヨリ選挙シ理事長ヲ互選ス役員ノ  
 任期ハ各々二ヶ年トシ總會ニ於テ改選スルモノトス、

但シ再選スルコトヲ得

第六条 本会ノ役員ハ正當ノ理由ナクシテ辞任スルコト  
 ヲ得ス

第七条 理事長、理事ニ欠員ヲ生シタル時ハ役員会ニ於  
 テ適當ノ処置ヲ取ルヘシ

第八条 理事長ハ会務ヲ統轄シ役員会ヲ主宰ス

第九条 理事ハ理事長ヲ輔佐シ会務及ヒ會計ヲ司ル

第十条 役員会ハ理事長ノ召集ニヨリ又ハ役員ノ半数以  
 上ノ請求ニヨリテ開会ス

第十一条 本会ハ目的達成ノタメ左ノ如キ事業ヲナス  
 一、毎年一回總會ヲ開ク(八月上旬)

二、東洋大学財団法人ノ維持員ヲ選出ス(任期三ヶ年)

三、毎年一回会報ヲ発行シ会員ニ配布ス(九月)

四、其ノ他第三条ノ目的ニ從ヒ臨時緊急ナル事業ヲナ  
 ス

第十二条 本会員ハ入会ノ際入会金貳円ヲ納ムルモノト  
 ス

第十三条 本会員ハ転居転動其他身上ニ移動ヲ生シタル  
 時ハ其ノ都度本会ニ通知スヘシ

第十四条 右ノ外本会ノ目的ヲ達スルタメニ主要ナル事  
 項ハ別ニ之ヲ定ム

第十五条 本会則ハ昭和三年八月廿日ヲ以テ施行期日ト

ス

以上

『東洋大学一覽 昭和八年度』二四五—二四六頁

(昭和八年十一月二三日)

## 五五〇—二 東洋大学校友会北米支部規約

(昭和四年五月一日承認)

### 規約

- 一、本会は東洋大学校友会北米支部と称す
- 一、本会々員は北米合衆国に在住する東洋大学出身者たる事
- 一、母校を同じくする会員間の親睦提携を図り且又東洋大学校友会と連絡を保ち母校の発展に努むる事を目的とする

- 一、本会々員は成るべく左記事項を実行する事

- (1)各種の機関を利用して母校を後援する事

- (2)母校出身者又は関係者渡米の際は会員の集合を催し便宜をはかる事

- 一、本会本部を北加在住の会員自宅を之にあて、支部を南加在住の会員自宅内に置く

- 一、北加南加の会員を各一名宛本会幹事に依嘱す

- 一、本会幹事の改選、経費其他の事務に關しては隨時本

支部両幹事協議の上之を行ふ

『東洋大学新聞』第五〇号(昭和四年六月三日)

## 五五〇—三 東洋大学校友会埼玉県支部会則

(昭和四年九月一五日起施行)

### 埼玉県支部会則

- 第一条 本会ヲ東洋大学校友会埼玉支部ト称シ事務所ヲ当分川越市菅原町妙善寺内ニ置ク

- 第二条 本会ハ埼玉県出身並ニ埼玉県在住ノ東洋大学出身者及ヒ在学生其他東洋大学関係者ヲ以テ組織ス

- 第三条 本会ハ会員相互ノ親睦連絡ヲ図リ研鑽教導ニ資シ且ツ母校ヲ応援スルヲ以テ目的トス

- 第四条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

- 支部長 一名 常任理事 一名
- 理事 若干名 顧問 若干名

- 第五条 支部長及ヒ理事ハ会員中ヨリ互選シ理事中ヨリ常任理事一名ヲ互選ス役員ノ任期ハ各々一ケ年トシ總會ニ於テ改選スルモノトス

- 第六条 支部長及ヒ理事ニ欠員ヲ生シタル時ハ役員会ニ於テ適當ノ処置ヲ講スヘシ

- 第七条 支部長ハ会務ヲ統轄シ役員会ヲ主宰ス

第八条 理事ハ支部長ヲ補佐シ会務及ヒ会計ヲ司ル

第九条 役員会ハ支部長ノ招集ニヨリ又ハ役員ノ半数以上ノ請求ニヨリ開会ス

第十条 本会ハ目的達成ノ為メ左ノ如キ事業ヲナス

一、毎年一回總會ヲ開ク（八月中）

二、会報ヲ発行シ会員ニ配布ス

三、会員ノ吉凶ニ際シ慶弔ノ意ヲ表ス

四、其他第三条ノ目的ニ從ヒ臨時緊急ナル事業ヲナス

第十一条 本会員ハ会費年額金壹円ヲ納ムルモノトス、但シ在学生ハソノ半額トス

第十二条 本会員ハ転居転動其他身上ニ移動ヲ生シタル

トキハ其ノ都度本会ニ通知スヘシ

第十三条 右ノ外、本会ノ目的ヲ達スル為メ主要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第十四条 本会則ハ總會ノ出席者半数以上ノ賛同アラサ

レハ変更スルコトヲ得ス

本会則ハ昭和四年九月十五日ヲ以テ施行期日トス

以上

『東洋大学一覽 昭和八年度』二四七—二四八頁

（昭和八年二月二三日）

## 五五〇—四 東洋大学校友会愛媛県支部規約

〔昭和六年五月改正〕

愛媛県支部規約（昭和六年五月改）

一、本会ハ東洋大学校友会愛媛支部ト称シ愛媛県ニ關係アル東洋大学出身者ヲ以テ組織ス

二、本会ノ事務所ハ当分幹事ノ宅ニ置ク

三、本会ノ目的ハ相互ノ親睦ヲ図リ學術研究ヲナスモノトス

四、本会ハ毎年一回春季ニ於テ總會ヲ開ク、但シ必要ニ

応シテ臨時会ヲ開クコトアルヘシ

五、本会ノ幹事ハ二名トシ總會ニ於テ選舉シ任期ヲ一ケ年トス

六、本会ハ總會及ヒ適當ノ時ニ於テ講演会ヲ開催ス

七、本会ノ会費ハ年額金壹円トス

以上

『東洋大学一覽 昭和八年度』二四七頁

（昭和八年二月二三日）

## 五五〇—五 東洋大学校友会新潟県支部会則

〔昭和六年九月二七日実施〕

新潟県支部会則

第一条 本会ヲ東洋大学校友会新潟県支部ト称シ事務所ヲ当分ノ間長岡高等学校内ニ置ク

第二条 本会ハ新潟県在住ノ東洋大学ノ出身者及ヒ在學生其他東洋大学関係者ヲ以テ組織シ在学生ヲ除ク外東洋大学校友会タルモノトス

第三条 本会ハ創立者故井上円了先生ノ遺徳ヲ奉シ會員相互ノ親睦連絡ヲ図リ研鑽教導ニ資シ且ツ母校ヲ後援スルヲ以テ目的トス

第四条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

顧問 若干名 支部長 一名  
常任理事 三名 理事 若干名

第五条 支部長、常任理事、理事ハ會員ヨリ互選ス、任期滿一ケ年トシ總會ニ於テ改選スルモノトス

第六条 本会ハ校友会々則ニヨリ評議員一名ヲ選出ス

第七条 役員ニ欠員ヲ生シタル時ハ役員會ニ於テ適當ノ処置ヲ講スヘシ

第八条 顧問ハ諮詢機關ニシテ會員ヲ統制ス

第九条 支部長ハ会務ヲ統轄シ役員會ヲ主宰ス

第十条 理事ハ支部長ヲ補佐シ会務及ヒ會計ヲ司ル

第十一条 役員會ハ支部長ノ招集ニ依リ又役員ノ半数以上ノ請求ニヨリ開會ス

第十二条 本会ノ目的達成スル為メ左ノ事業ヲナス

一、講演會、講習會ノ開催、會報（名簿）発行

二、毎年一回總會ヲ開ク

三、會員ノ吉凶ニ際シ慶弔ノ意ヲ表ス

四、其他第二條ノ目的ニ從ヒ臨時緊急ナル事業ヲナス

第十二条 本會員ハ会費年額壹円ヲ納ムルモノトス

第十三条 本會員ハ転居転勤其ノ他身上ニ移動ヲ生シタルトキハ其ノ都度本会ニ通知スヘシ

第十四条 右ノ外本会ノ目的ヲ達スル為メ主要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

（昭和六年九月二十七日ヨリ実施）

『東洋大学一覽 昭和八年度』二四二—二四三頁

（昭和八年十一月二三日）

五五〇—六 東洋大学校友会福島県支部会則

〔昭和八年五月二八日施行〕

福島県支部会則

第一条 本会ヲ東洋大学校友会福島県支部ト称シ事務所ヲ石川郡石川町長泉寺内ニ置ク

第二条 本会ハ福島県出身並ニ福島県在住ノ哲学館東洋大学出身者及在学生其他東洋大学関係者ヲ以テ組織ス

第三条 本会ハ会員相互ノ親睦連絡ヲ図リ研鑽教導ニ資シ且ツ母校ヲ後援スルヲ以テ目的トス

第四条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク 支部長一名、常任理事二名、理事若干名、顧問若干名

第五条 支部長ハ会員中ヨリ互選シ理事ハ支部長役員ノ任期ハ各一ケ年トシ總會ニ於テ改選スルモノトス

第六条 支部長ハ会務ヲ統轄シ役員会ヲ主宰ス常任理事ハ支部長ヲ補佐シ会務及會計ヲ司リ理事ハ支部長ノ命ヲ受ケ会員トノ連絡ヲナス

第七条 役員会ハ支部長ノ招集又ハ役員ノ請求ニヨリ開会ス

第八条 本会ハ目的達成ノ為メ左ノ如キ事業ヲナス

一、毎年一回總會ヲ開ク

二、会報ヲ年一回発行シ会員ニ配布ス

三、会員ノ吉凶ニ際シ慶弔ノ意ヲ表ス

四、其ノ他第三条ノ目的ニ從ヒ臨時緊急ナル事業ヲナス

第九条 本会員ハ会費年額金壹円ヲ納ムルモノトス、但シ学生ハ半額トス

第十条 本会員ハ転居転動其他身上ニ移動ヲ生シタル時ハ其ノ都度本会ニ通知スヘシ入会及退会ノ指命トシ常任理事ハ理事中ヨリ二名ヲ互選スモ之ニ同シ

第十一条 本会々則改正ノ必要アル時ハ總會ニ於テ之ヲ決ス

第十二条 右ノ外本会ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事項ハ總會ノ決議ニヨリ之ヲ決ス

本会則ハ昭和八年五月廿八日会合ニ於テ決議施行ス 以上

〔編者注 本会則の第五条と第十条の条文には、印刷上の誤りによると思われる混乱が認められ、次のように条文を改めることができる。〕

第五条 支部長ハ会員中ヨリ互選シ理事ハ支部長ノ指命トシ常任理事ハ理事中ヨリ二名ヲ互選ス役員ノ任期ハ各一ケ年トシ總會ニ於テ改選スルモノトス

第十条 本会員ハ転居転動其他身上ニ移動ヲ生シタル時ハ其ノ都度本会ニ通知スヘシ入会及退会モ之ニ同シ

『東洋大学一覽 昭和八年度』二四三—二四四頁 (昭和八年一月二三日)

五五〇—七 東洋大学校友会広島県支部規約

(昭和八年一月)

広島県支部規約

第一条 本会ハ東洋大学校友会広島支部ト称ス

第二条 本会ノ事務所ハ広島市天神町教会寺内ニ置ク

第三条 本会ハ東洋大学ニ関係ヲ有スル広島県在住者ヲ

以テ組織ス

第四条 本会ハ会員相互ノ連絡親睦ヲ計ルヲ以テ目的ト

ス

第五条 本会ニ幹事二名ノ役員ヲ置キ会務ヲ処置ス

一、幹事ノ任期ハ一ケ年トス

二、後任幹事ハ前任者ノ指名トス

第六条 毎年一回総会ヲ開催ス、但シ幹事ニ於テ必要ア

リト認メタル時ハ臨時開会スルコトヲ得

以上

『東洋大学一覽 昭和八年度』二四四—二四五頁

(昭和八年一月二三日)

## 五五〇—八 東洋大学校友会兵庫県支部会則

(昭和八年一月)

兵庫県支部会則

第一条 本支部ヲ東洋大学兵庫県支部ト称シ兵庫県ニ在

住スル東洋大学出身者並ニ関係者ヲ以テ組織ス

第二条 本支部事務所ヲ当分ノ内神戸市名倉町二丁目三

三藤川吉次郎方ニ置ク

第三条 本支部ハ会員相互ノ親睦向上ヲ図リ母校創立精

神ノ發揚ヲ以テ目的トス

第四条 本支部ニ左ノ役員ヲ置ク

理 事 三 名

第五条 理事ハ本支部ノ事務及ヒ會計ヲ兼掌ス

任期ヲ一箇年トシ總會ニ於テ支部員中ヨリ之ヲ互選ス

第六条 本支部ハ左ノ事業ヲ行フ

一、總 会 毎年一回

二、臨 時 会 随 時

三、会員名簿発行

四、其 他

第七条 本支部部員ハ入会金壹円ヲ會計ニ納入スルモノ

トス

以上

『東洋大学一覽 昭和八年度』二四五頁

(昭和八年一月二三日)

## 五五〇—九 東洋大学校友会長野県支部会則

(昭和八年一月)

長野県支部会則



第一条 本会ヲ東洋大学校友会長野支部ト称ス

第二条 本会ハ東洋大学（旧哲学館及哲学館大学）校友  
ニシテ長野県人及長野在住者ヲ以テ組織ス

第三条 本会ハ会員相互ノ親睦ヲ図リ校友会本部ト連絡  
シテ母校ヲ後援シ且其ノ学風ヲ宣揚スルヲ以テ目的ト  
ス

第四条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

監事 四名 理事 若干名

第五条 本会ハ毎年一回以上總會ヲ開ク、其他隨時会合  
スルコトアルヘシ

第六条 会費一ケ年金參円トシ内金壹円五拾錢ハ總會ノ  
節支部ニ於テ取纏メ監事ハコレヲ本部ニ納ムルモノト  
ス

『東洋大学一覽 昭和八年度』二四六—二四七頁

（昭和八年十一月二三日）

## 五五〇—一〇 東洋大学校友会台湾支部規約

（昭和八年十一月）

### 台湾支部規約

第一条 本会ハ東洋大学校友会台湾支部ト称ス

第二条 本会ハ台湾在住ノ東洋大学卒業生及母校関係者

ヲ以テ組織ス

第三条 本会ハ相互ノ親睦ヲ計リ學術ノ研究ヲナシ兼テ  
母校發展ノ後援ヲナスヲ以テ目的トス

第四条 本会ニ支部長一名、幹事二名ヲ置ク、幹事ノ任  
期ハ一箇年トス、但シ重任差支ナシ

第五条 支部長ハ一切ノ事務ヲ処理シ、幹部ハ支部長ヲ  
助ケテ會計其他ノ事務ヲ掌ル

第六条 本会ノ会費ハ当分一箇年金壹円トス

第七条 本会ニハ地方ノ状況ニヨリ区劃ヲ定メテ支会ヲ  
設クルコトヲ得

第八条 支会ニハ理事一名ヲ置キ其ノ事項ヲ処理シ、会  
員ノ吉凶其他事故アル時ハ之ヲ支部長ニ報告ス、但シ  
支会ノ細則ハ各支会ニ於テ適宜之ヲ定ムヘク、會計ハ  
各支会独立トス

以上

『東洋大学一覽 昭和八年度』二四八—二四九頁

（昭和八年十一月二三日）

## 五五〇—一一 東洋大学校友会滿洲總支部規約

（昭和十三年九月二十六日施行）

東洋大学校友会滿洲總支部規約

第一条 本会ハ東洋大学校友会満洲総支部ト称シ本部ヲ

新京特別市ニ置ク

〔第〕  
録) 第二条 本会ハ東洋大学卒業生ヲ以テ組織ス

第三条 本会ハ東洋大学卒業生ノ親睦ヲ図リ母校ノ後援ヲ為スヲ以テ目的トス

第四条 本会ノ目的ヲ達スル為メ各省及特別市ニ支部ヲ設立スルコトヲ得

第五条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

一、総支部長 一名 新京支部長ヲ兼ヌ

二、幹 事 若干名 新京支部幹事ヲ兼ヌ

三、各地支部ニ支部長 必要アルトキハ幹事若干名ヲ置クコトヲ得

第六条 本会ハ会員ノ寄附ヲ以テ維持ス

第七条 本部並ニ各支部ニ於テハ毎年十一月二十三日ノ

母校創立記念日ヲトシ定期總會ヲ開催ス

第八条 総支部ニ総支部会員名簿及會計簿ヲ備フ

附 則

本規約ハ康德五年（昭和十三年）九月二十六日より施行ス

従前ノ規約ハ之ヲ廃止ス

『昭和十九年度（康德十一年五月現在）

東洋大学校友会満洲総支部会員名簿』

## 五五一 東洋大学校友会改正会則抜萃

〔昭和一八年九月改正〕

改正会則抜萃（昭和十八年九月改正）

第一章 名称目的

第一条 本会ハ東洋大学校友会ト称ス

第二章 省 略

第二章 本部及支部

第三条 本会ノ本部ヲ東京都小石川区原町十七番地

東洋大学内ニ置キ支部ヲ各地ニ置ク

第三章 会 員

第四条 本会ハ左ノ資格者ヲ以テ組織ス

旧哲学館、旧哲学館大学及東洋大学ノ卒業

者、選科修了者、推薦得業者、学長タルモノ

及ヒ講師ノ称号ヲ有スル者

第五条 本会ニ入会セントスルモノハ卒業年度学部

専門ノ別、科別、職業、住所、氏名、生年月

日ヲ記入シ入会金壹円及ヒ終身会費金十五円

ヲ添ヘ本部ニ申込ムモノトス、但シ昭和十四

年以降ノ卒業生ハ在学中ニ終身会費金十五円

ヲ分納シ卒業ト同時ニ全員校友会員タルモノトス

第六 条 昭和十八年十月一日以前ニ入会セル会員ニ

シテ終身会員ニ非ルモノハ毎年度ノ始メニ於  
テ一ヶ年分ノ会費金壹円五拾銭ヲ前納スルモ  
ノトス、但シ一時金十五円以上ヲ納入シタル  
モノハ終身会員トス

#### 第四章 役員

第七 条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

会長一名副会長一名、常務評議員十名以内、  
評議員六拾名以内（地方選出者ハ含マズ）監  
事二名ヲ置ク

第八 条 本部役員ハ東京都在住者ニ限ル

第九 条 会長ハ本会ヲ代表シ会務ヲ統轄ス

副会長ハ会長ヲ補佐シ会長事故アルトキハ之  
ヲ代理ス常務評議員ハ本会ノ会務ヲ分掌執行  
ス

監事ハ本会ノ財産ノ状況ヲ監視シ常務評議員  
会及ヒ評議員会ニ出席シ意見ヲ述ブルコトヲ  
得

評議員ハ評議員会ニ於テ本会ノ重要事項ヲ審  
議決定ス

#### 第五章 役員選挙

第十 条 役員ノ任期ハ二ヶ年トス

但シ再選ヲ妨ケス

第十一 条 会長ハ本学学長トシ副会長ハ常務評議員会

ノ議ヲ經テ会長之ヲ指名ス常務評議員及監事  
ハ評議員会ニ於テ選挙シ評議員ハ銓衡委員之  
ヲ銓衡決定ス但シ銓衡委員ノ員數ハ選挙長之  
ヲ決定スルモ其ノ員數ハ五名ヲ下ルコトヲ得  
ス

第十二 条 銓衡委員選挙長ハ会長トス

第十四 条 選挙長ハ銓衡委員選挙期日十日前ニ第十二

条ノ有資格者ヲ以テ銓衡委員選挙人名簿ヲ作  
成スルモノトス

第十六 条 銓衡委員ノ選挙ハ單記式無記名投票ニ依ル

モノトス

第二十一 条 当選ハ得票数ノ順位ニヨリ決定ス但シ得票

同數ノ場合ニハ卒業及出身順ニヨリ卒業及出  
身ノ同一ナル場合ハ抽籤順ニヨルモノトス

第二十二 条 銓衡委員ハ当選後十日以内ニ評議員銓衡委

員会ヲ開キ指定ノ員數ヲ銓衡決定シ之ヲ選挙  
長ニ報告ス選挙長ハ速ニ評議員承諾書ヲ徴シ  
之ヲ会報又ハ適當ノ方法ニヨリテ会員ニ報告

スルモノトス銓衡委員会ノ座長ハ互選ニヨル  
第二十三条 評議員銓衡委員長ハ毎年新卒業生中ヨリ二  
名以内ノ評議員ヲ指名スルコトヲ得

第二十五条 副会長及常務評議員ニ欠員ヲ生シタルトキ  
ハ常務評議員会ノ議ヲ經テ会長之ヲ指名補欠  
スルコトヲ得、但シ補欠ニ依ル役員ノ任期ハ  
前任者ノ残任期間トス

第二十六条 監事ハ評議員会ニテ選挙ス但シ出席者ノ四  
分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

附 則

本会則ノ改正ハ<sup>〔マ〕</sup>昭和十八年九月十九日ヨリ之ヲ実  
施ス、本会則改正ニ際シ就任セル役員ノ任期ハ  
昭和二十年二月五日迄トス

『東洋大学校友会々報』第六号(昭和一九年三月二五日)

第二節 機 関 誌

五五二 『東洋大学校友会会報』創刊の辞

(昭和九年八月)

校友会会報創刊に就いて

酷暑を克服して奮闘せられつゝある校友各位の御健康  
を祈り上げます。

惟ふに、創立以来五十年に近い歴史に誇る学園を母体  
として、長き伝統を有するわが校友会に未だ独立した機  
関誌が無かつたといふことは非常に遺憾な事でありまし  
た。勿論、今迄は東洋哲学、東洋大学彙報、東洋大学々  
報等に依つて校友間の聯絡をつけてゐたとは云へ何かに  
つけて不自由なもの足りなさを感じてゐたのです。

然るに昨年春校友会員の大同団結が達成されて、新会  
則の作成、新役員の選定等に伴ふ本会飛躍の一転機は、  
全会員各位の熱誠なる後援支持と相俟つて、茲に昭和九  
年八月遂に多年の懸案たる校友会報創刊の実現を見るに  
至つたのであります。

この上は更に全校友大同団結の実を挙げるべく、本会  
の二大使命たる校友相互の親睦和衷と母校発展援助との  
為に最善の努力を尽し度いと思ひます。希くば六千の出  
身者が手を携へて進むべき大校友会が生れ、卒業生の全  
部が校友会員たる大理想現出の日が一日も早く訪れるや  
う待望し祈念して己<sup>〔己〕</sup>みません。

本誌創刊に当り、些か所懐を述べて、今後益々本会並  
に母校の為に各位の御後援をお願いする次第でありま

す。

東洋大学校友会

『東洋大学校友会会報』第一号（昭和九年八月二〇日）

五五三 『東洋大学校友会々報』復刊の辞

（昭和一六年八月）

校友各位の一元的の協力を望む

――劃期的の隆々たる校運――

校友会報は便宜上一時東洋大学新聞をもつて之に代へられてゐたが、校友会の改組などから新聞も休刊のやむなきに至つたので、折角校友会でも準備せられてゐた各種の記事も埋つて了つたのは遺憾であつた。そこで本会でも既往に発行もされてゐた会報再刊の機運を申合はされた。然るに最近各種の出版印刷物は統制下にあつて意の如くならないのであるが、せめて簡単な近況報道の程度で発行することになつた。大体に於いて支障のない限り学期に一度平均で発行したい予定である。本大学も今年度は急激に学生の入学者が膨張して一段と明朗化されつゝあるので大学側でも非常な緊張ぶりであるのは慶しい現象である。又志願者の口頭試問によると、校友の推薦のものが絶対多数にのぼつてゐることは当然とは言

へ、本大学の如き古き伝統を有し又現当局が極力校運の進展に邁進せられてゐることなどが因となり果となり時局に即応して一大飛躍を呈しつゝあることは驢て世界新秩序建設のためにも貢献するところ頗る大なることを確信するのである。それにつけても校友諸氏の母校なり、本会への積極的理解ある協力を要望してやまないのである。

『東洋大学校友会々報』復活第一号

（昭和一六年八月二〇日）